

俳句を楽しむ会

冬季作品
優秀作発表



お茶の持つ味と香りを
最大限に引き出し
時間をかけ
ていねいに仕上げました



三日月(さつき)シリーズ

和(なごみ)風
100g入り一箱
840円

和(ゆき)風
100g入り一箱
630円

和(あま)み紅茶入り
100g入り一箱
590円

蛇笏忌や一杯番茶飲み干して

(甲 斐) 石川 凡夫

十月三日は俳人飯田蛇笏の忌日。山梨県清川市生まれ。早稲田大学に学び、キリスト教俳句会を中心の作家。大正四年「清見」刊行。生涯これに専念する。この量産的俳句、作者は切實な法則を定めて、三杯番茶を飲み干して「蛇笏」も詠句に込めておられます。

ときめきつお茶囲み聴く除夜の鐘

(山 梨) 古屋 理恵子

大徳日の夜、十二時近くになると除夜の鐘の響き傳り始める。百人の鐘聲を除去するとして、鐘聲の数は八百四拾の鐘を約く。お茶を囲んで、東洋茶館にあって聴くお茶したと時、人の世の事をまじりかた。

風邪などに負けるな孫に濃き紅茶

(甲 府) 三枝 春香

冬は冷たい飲茶するため「孫に濃き紅茶」宛てて。孫が風邪などにかかると、風邪などに人の世の負けるな。

祖父のお茶未だ忘れじ菊日和

(甲 斐) 越智 弘子

孫を大徳から野良猫や野良犬まで、孫には孫お茶の効果があつた。かつて祖父とお茶をいれたお茶は、孫に忘れられぬお茶の日の。

虚子立子墓所へ山内花茶垣

(甲 州) 山本 登志子

虚子、お茶の道、女立、立子の墓所、山内、花茶垣に飲まれたお二人、初冬の頃の茶垣は、虚子に小さな白色五弁の花を、向きに開き、濃い黄色の葉が特徴でよい香りを放つている。

佳作

茶柱が立ち遠足の秋日和

(大 月) 藤沢 正枝

自販機の熱き緑茶や冬に入る

(上野原) 天野 昭正

濃き茶あり高紅葉あり七回忌

(甲 斐) 松田 龍嗣

前向きの人と茶を汲む春隣

(甲 府) 三枝 春香

名月や茶飲みて友と高談哉

(甲 斐) 小笠原 勇

仏壇に朝茶供えて年惜しむ

(甲 斐) 藤江 せつ子

「芝浜」を聞きつ茶を飲む年の暮

(宮古野原) 田辺 義樹

一仕事終えて茶を汲む虫の夜

(大 月) 藤沢 正枝

味と香に富士もほほえむ秋摘み茶

(甲 州) 吉家 祐治

茶で乾杯車社会の忘年会

(大 月) 武川 幹雄

山茶花や会議の後はお茶の会

(上野原) 山口 秀子

冬日和濃き茶に聴く歌鳴らし

(甲 斐) 小林 利典

次回作品募集の「2案内」

●次の応募締切は三月三十一日(月)酒印有効になります。

●テーマはお茶。家族や隣人、仲間と楽しみながら読むお茶を、季節の中で俳句表現してください。お茶の他に尾布茶、梅茶、紅茶、ウーロン茶、尾布茶もOKです。

●応募頂いた作品の中から優秀な作品には賞状をプレゼントを用意しています。

●発表は応募締め切り後三〜四週で発表します。

●選者は県内で俳句活動を行われている渡辺和風先生にお願いたします。

(先生には選者にあたり表現上の誤りも願ひしております。ご了承ください)

応募方法 ●ハガキで愛和園本店(俳句を添しむ会)まで郵送していただくか、左記直売店までお持ちください。お一人様何点でも応募できます。●応募いたたく作品は未発表のものに限ります。また、応募作品は返却しません。●作品には応募者の住所、氏名年齢、電話番号を記入してください。ペンネーム応募の方は、下に(本名)を括弧で記入してください。

味A着りのTwinklケーキパン



本店 山梨県甲府市太田町四一七 電話055-260-0000
TEL:055-2633-5075
直売店 ●太田町本店 ●湯村店
●山文店 ●リバーシティ店